

さいたま市長 5月定例記者会見

平成26年5月22日（木曜日）

午後1時30分開会

- 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
それでは、記者クラブ幹事社の共同通信社さん、進行をよろしく願いいたします。
- 共同通信 5月の幹事社を務めます共同通信社です。よろしくお願いいたします。  
それでは、本日の記者会見内容につきまして、市長から説明をお願いいたします。
- 市 長 皆さん、こんにちは。  
このところ大変爽やかな気候が続いております。まさしく風薫る5月となりました。市内では、先週17、18日に与野公園におきまして開催されました「ばらまつり2014」には延べ16万人の皆様にお越しいただきまして、満開のバラを楽しんでいただきました。  
また、今週末にも「大宮薪能」、「うなぎまつり」、「鉄道のまち大宮 鉄道ふれあいフェア」等、多くのイベントの開催が予定されております。市民の皆様には、ぜひお近くのイベントにお運びをいただき、爽やかな季節を満喫していただきたいと思っております。  
また、お越しの際には、念のため熱中症対策や紫外線対策にご注意いただきますようお願いいたします。  
それでは、本日の議題に入らせていただきます。

### 市長発表：議題「日本代表応援イベント with さいたまるしえを開催します」

議題「日本代表応援イベント with さいたまるしえを開催します」についてご説明させていただきます。

100年の歴史を持つ「サッカーのまち さいたま」として、サッカー界最大のイベントであります「2014 FIFAワールドカップブラジル大会」に出場するサムライブルー、日本代表を応援するため、パブリックビューイングを初めとする応援イベントを開催いたしますので、その概要

についてお知らせいたします。

期日は、日本代表の初戦に合わせまして、6月14日土曜日、また15日日曜日の2日間でございます。

会場は、JR浦和駅東口駅前市民広場、パルコ前の市民広場におきまして開催いたします。

日本サッカー協会のほか、資料に掲載した多くのまちの方々の協力を得まして、さまざまな応援イベントを展開してまいります。

また、この応援イベントを通じまして、サッカーのまちの機運醸成を図り、さいたま市からブラジルへ声援を送ろうとするというものであります。

それでは、イベントの概要を説明させていただきます。

1日目の14日土曜日は13時からの開催で、終了は20時半を予定しております。

さいたま市内のおいしいものを集める「さいたまるしえ」、今回の内容は「浦和ビアスタジアム」として地元の飲食店を中心に出店をいただいております。ビールやおいしいおつまみを提供させていただきます。「さいたまるしえ」は、2日間とも終日開催をさせていただきます。

13時から15時は、日本フリースタイルフットボール協会の協力で、子供たちが参加できる教室「ブカツ」をさいたま市の観光大使にもなっております「球舞」の皆さんにご協力をいただいております。15時から、この球舞の皆さんのパフォーマンスということになります。

15時半からは、レッズOBの山田暢久さん他によります「明日に迫った日本の初戦を占う」というトークショーを行っていただきます。

また、ステージイベント終了後もサッカー関連の映像放送などを行いながら飲食、物販のブースを展開し、来場者にお楽しみをいただきます。

2日目の15日日曜日は10時から開催を予定しております。「さいたまるしえ」は、前日と同様に終日開催させていただきます。

そして、10時から12時の間で、日本のワールドカップ初戦となりますコートジボワール戦をパブリックビューイングで実施いたします。

14時から、地元のミュージシャンたちによりますライブ演奏、「ウラワザストリート・ライブ」というものを行います。

また、19時ごろから電気を消してキャンドルを灯す、仲間との絆を深

め、日本代表の健闘を祈るとともに、地球温暖化防止にも寄与することを目的にライトダウンを実施いたします。イベント全体の終了は、前日と同様に20時半を予定いたしております。

なお、このパブリックビューイングにつきましては、地元のNHKさいたま放送局さんと共催で無料で開催をさせていただきます。ステージに設置をした240インチのLEDスクリーンにて放映をいたします。ステージ前に設けた特設会場におきまして、当日先着500名までの入場制限を行わせていただく予定です。

特設会場への入場開始は、キックオフ1時間半前の8時半を予定しております。入場開始前の待機列などの状況によりまして、整理券の配布を実施し、安全な入場の確保に努めていきたいと思っております。

初戦の勝敗がその後の行方に大きく影響いたしますので、皆さんの熱い応援をお願いしたいと思います。

最後に、そのほかの応援事業について幾つかご紹介したいと思います。

1つ目が「街中をサムライブルーに染めろ」と題しました応援バナーを掲出いたします。実物がこちらのものになります。これがデザインでございまして、浦和駅周辺、そして大宮駅周辺に約280枚を掲出する予定です。この両駅をサムライブルーで染めて機運の醸成を図ってまいりたいと考えております。

期間は、埼玉スタジアムで5月27日に行われます日本代表の壮行試合、キプロス戦を起点に、ワールドカップが終了します7月15日までを予定しております。

2つ目が日本サッカー協会とJR浦和駅さんの協力によりまして、浦和駅構内に代表選手28名の写真パネル、イメージとしてはこちらでございますけれども、こういったものを掲出させていただきます。

写真は、これまで代表に選ばれた選手によるものでございまして、最終選考23名に漏れた選手も一部含まれております。

そして、最後に紹介するのはマッチフラッグの掲出でございます。4月27日にアーティストの日比野克彦さんをお招きしまして、うらわ美術館の主催で行いましたワークショップ、「マッチフラッグプロジェクト」で市民が作成したものでございます。

「マッチフラッグプロジェクト」とは、サッカーの試合で対戦する両国のナショナルカラーを用いて旗をつくろうという試みであります。この日つくられた旗のうち、パブリックビューイングを行う「日本対コートジボワール」のマッチフラッグをイベント会場に掲出をさせていただきます。

以上のように、さいたま市では多くの皆さんや団体の協力によりましてさまざまな応援イベント及び事業を実施し、日本代表の活躍を祈っていきたいと思います。全国各地域でも同様の応援が行われ、大きな力となってブラジルに届くことを期待しております。

私からは以上です。

○ 共同通信 どうもありがとうございました。

それでは、幹事社として幹事社から質問をさせていただきます。

### 議題に関する質問

まず、パブリックビューイングのことでなんですけれども、これは整理券の配布時間というのは決まっていますでしょうか。

○ 市長 では、担当から。

○ 事務局 スポーツ振興課でございます。

先ほど市長からもありましたように、待機列の状況によりまして判断させていただきますまして、今8時半からの入場ということで仮に設定しておりますが、それを早めるなどして、無理のない安全な体制をとっていきたいと考えております。

○ 共同通信 わかりました。

今に関連してなんですけれども、お客様には何時ぐらいから並んでもオーケーかという決まりはあるのでしょうか。

○ 事務局 特に時間の指定はしてございませんで、ただ夜間警備等を立たせておりますので、徹夜で、ですとか、そういった極端に周辺にご迷惑かかるような場合はその都度指導してまいりたいと考えております。

○ 共同通信 ありがとうございます。

あと、今のイベントに関してなんですけれども、こういったイベントは前例があるのかという点と、あと何人ぐらいの方が集まられることを見込んでいらっしゃるのか、お願いいたします。

- 市長           これは、さいたま市としてということですか。
- 共同通信       そうですね。
- 市長           さいたま市としては初めてになると思います。それで、何人ぐらいかというのなかなか予測が付きませんが、県のほうでも埼玉スタジアムでパブリックビューイングをやると聞いてございますので、ここ1カ所に集中するということにはならないとは思いますが、ただかなりのサッカーファン、あるいはサポーターの方々がいらっしゃいますので、人数ははっきり想定をしておりますけれども、かなりたくさん集まるだろうということで、あえて500名に限定をさせていただいて、入れなかった方には、埼玉スタジアム、別のパブリックビューイングのほうでということをお勧めしていきたいと思っております。
- 共同通信       ありがとうございます。
- 最後にもう一点お願いしたいんですけども、「さいたまのしゅん」なんですけれども、幾つぐらいのお店がオープンされるのでしょうか。
- 市長           では、担当から。
- 事務局         スポーツ振興課です。
- 飲食のブースとしましては、8店舗を予定しております。物販に関しては、今決まっている状況で2店舗決まっております、それらの方々の協力を得て行っていきたいと考えております。
- 共同通信       ありがとうございました。
- 市長からの説明について質問があればお願いいたします。
- 埼玉新聞       埼玉新聞です。
- 今回市の主催としてはこういったイベントは初めてだということなんですけど、どういった狙いというか、お考えというか、願いがありまして、こういったイベントを開催することになったのでしょうか。
- 市長           先ほどもちょっと冒頭でお話をしましたけれども、1つは、さいたま市は「サッカーのまち」ということで、100年以上の歴史を持つ都市でありますので、その「サッカーのまち」として、(ワールドカップは)サッカーのイベントとしては世界最大のイベントであり、4年に1回しかない大変大きなイベントでありますので、それをしっかり盛り上げていこうということと、また「サッカーのまち」としてのさいたま市をアピールしてい

こうということと、さらには日本代表、年々、各ワールドカップのたびごとに非常に実力をつけて強くなってきており、今回もそういう意味ではブラジル大会で大いに活躍をしていただけるだろうと思っておりますので、そういった応援、エールを現地で見るということはなかなか難しいことでもありますので、地域から発信をしていこうと考えております。

○ 埼玉新聞 市長は、サッカーを応援する自治体の市長の会の会長さんをされていますよね。そういったことも今回の件には関係があるのですか。

○ 市長 先般、日本サッカーを応援する自治体連盟というのを272280(会見後訂正)の自治体で設立をしまして、共通で取り組んでいく最初のイベントがこのワールドカップを応援しようというイベントということになるかと思えます。

そういう意味では、さいたま市だけではなくて、各地域でいろいろな形で応援のイベントをやっていただくことによって日本全体を盛り上げていくということにもつながるでしょうし、またサッカーを含めてスポーツの振興にもつながっていくと思っておりますので、そういった他の自治体との連携なども含めながらみんなで応援していこうという機運を醸成していこうという、そんな思いでやらせていただきます。

○ 埼玉新聞 もう一点なんです、今回さいたま関係ですと浦和レッズの西川選手が選ばれて、先日表敬訪問に来て、それからもう一人、さいたま市出身の川島選手が選ばれている。彼ら2人に本大会でどんな活躍をしてほしいと願っていますでしょうか。

○ 市長 2人ともゴールキーパーという同じ守備位置ということで、少し複雑な思いもございますけれども、西川選手については、Jリーグの中でもここ数試合、得点を封じてきて、昨年まで比較的得点されやすかったと言われていたレッズが非常に得点されないチームになってきた、一つの大きな原動力にもなってくれていると思っておりますので、その西川選手の力、それから川島選手もさいたま市出身として、これまでも日本代表のゴールキーパーとして活躍をされていたんですけども、2人がしっかりと日本のゴールを守ることによって日本チームは大いに躍進をするのではないかなというふうに思っております。

○ 共同通信 ほかにご質問ありますでしょうか。

それでは、幹事社として代表質問をさせていただきます。

**幹事社質問：昨年発生した野球試合中に熱中症で10人の中学生が搬送された事案を受けての市としての対策は**

県内では、もう既に真夏日になる日もあり、熱中症が心配される季節となってきました。さいたま市では、昨年の7月に岩槻区の中学校のグラウンドで野球の練習中に中学生10人が搬送されるという事案がありましたけれども、市としてこういった事案を防ぐために何か対策をとられていますでしょうか。また、今後何か新たな取り組みとかされるご予定があれば教えていただけますでしょうか。お願いします。

○ 市 長           それでは、幹事社からの質問にお答えをしたいと思います。

まず、学校現場におきましては、例年5月から9月につきましては熱中症による救急搬送が発生しており、熱中症対策が必要な時期となっております。今年も、先週から気温の高くなる日が増えたことから、5月16日に教育委員会が各学校に対しまして、熱中症事故防止について注意喚起を行いました。

学校における部活動など運動中の熱中症事故防止として、小まめな水分補給や休憩時間の確保に努めるほか、財団法人日本体育協会が熱中症事故防止のために示しておりますスポーツ活動中止の目安、これは「WBGT 31度以上」というものでありますけれども、これの徹底が大事であると考えております。

また、本市では幸い教室にもエアコンを設置しておりますので、部活動などの休憩場所として、エアコンの効く1階の教室を活用するなどの対策も有効であると考えております。

今後は、熱中症事故発生の確率がより高まることから、熱中症予防の指標であります暑さ指数、先ほど言いましたWBGTによる学校に対する情報提供を図っていくほか、教育委員会が作成をしました「危機管理対応マニュアル作成指針」に基づき、万全な体制に努めていきたいと思っております。

以上です。

- 共同通信            ありがとうございます。

### 幹事社質問に関する質問

幹事社から1点質問なんですけれども、今のお話の中で、市内の学校にはエアコンがついているというお話だったんですけれども、全部の学校についていると理解していいのでしょうか。

- 市 長            はい、全部の学校についております。

- 共同通信            全教室についているのでしょうか。

- 市 長            特別教室以外の普通教室については全てついてございます。

- 共同通信            ありがとうございます。

この件に関して質問のある社がいらっしゃいましたらお願いします。

- 埼玉新聞            埼玉新聞です。

熱中症について、学校以外の部分についてお尋ねしたいんですが、高齢者とか小さいお子さんの熱中症の事故というのが非常に懸念されると思います。過去にさいたま市内でも、高齢の方がそういった症状で亡くなったり、去年はたしか室内に置かれた1歳弱のお子さんが亡くなってお母さんが逮捕されるという事件もありました。そういう関係を受けまして、そういった小さいお子さん、高齢の方に対しての対策はどのようにされようと考えていらっしゃいますでしょうか。

- 市 長            本市における熱中症対策でございますけども、チラシ、ポスター、うちの配布によります啓発、それから市報、市ウェブサイトへの記事の掲載のほか、埼玉スタジアム2002やNACK5スタジアムでの大型映像装置、大宮アルシェ電子掲示板を使った注意喚起というものを実施しております。

(また、)市民の皆様が暑さを避けるために、市内公共施設のうち、まちのクールオアシスとして利用できる施設について、市のウェブサイトで情報を提供しております。ちなみに、~~5月現在で45カ所ございます~~去年は45カ所ございました(会見後訂正)。

(さらに、)環境省から送付される暑さ指数に応じて、特に暑くなる日には、市のツイッターを活用した注意喚起と防災無線放送の実施をさせていただく予定でございます。



それから、特に高齢者、また障害者の皆さんへの取り組みについては、高齢者の方々には、あんしんコールセンター相談事業というものを利用してまして、お伺い電話を希望している高齢者に対して、7月、8月の際に熱中症について注意喚起を行ってまいります。また、シニアサポートセンターにチラシを配布してまいります。

また、障害者の方々には、毎年厚生労働省通知や本市の熱中症予防啓発チラシを使用して、市内の障害福祉サービス事業所等においても周知を行ってまいります。

○ 埼玉新聞 今幾つか対策等をおっしゃいましたが、その中で今年新たに始めたものというのがありますでしょうか。

○ 市長 担当のほうから。

○ 事務局 健康増進課でございます。

新たな取り組みといたしますと。

○ 埼玉新聞 先ほど市長がおっしゃった……幾つかありましたよね。その中で、ことから新しく始めたものを教えていただきたい。

○ 事務局 市長から申し上げたのは、現状でのおおむねの内容なんですけども、新たな取り組みといたしましては、例えば区によっては区のイベントがございますね。その時期をこれまで夏に開催していたものを時期をずらして、秋とか冬に開催するような工夫、要は時期での調整、それから水分補給用の飲み物とか、あるいは保冷剤等の持参の呼びかけ、これらを参加者に呼びかけて、あらかじめ防止に努めていくといったことが新たな取り組みとして取りまとめの中で上がってきております。

それから、区役所に催事情報システムという掲示板があるんですけども、そこでも7月、8月において予防の啓発を流していく、それをやろうかなと思っております。

以上です。

○ 埼玉新聞 ちょっと質問の意味が伝わりにくかったのかもしれませんが、今市長がおっしゃった内容の中に新しいものはありますか。今市長がおっしゃったのは、去年とかおとしからやっているものでしょうか。

○ 事務局 市長が申し上げた部分については、既存のものでございます。

○ 共同通信 それでは、そのほかに質問のある方は質問してください。

## その他：さいたまクリテリウム準備の進捗状況は。

- 読売新聞 読売新聞と申します。よろしく申し上げます。
- さいたまクリテリウムの実行委員会が26日に迫っていますけれども、正式契約ですとか、それからコース決定、県との共催など、形が見えながらも、なかなかまだできていない部分があると思うんですけども、そのあたりの進捗状況について現状をお話しいただける範囲で教えてください。
- 市長 それでは、今のご質問にお答えをしたいと思います。
- 現在の準備状況、進捗状況でございますけれども、まずコースについては警察を初め関係機関と協議をしている最中でございます。
- それから、ASOとの契約については、内容について調整も大詰めを迎えて最終段階に入っているということでございますので、何とか5月中には契約になっていくのではないかと考えております。
- それから、実行委員会の下部組織となります部会について、全体運営部会、競技部会、広報部会、交通部会、渉外部会というものを設置して、早急に構成員を確定し、実行委員会のさらなる拡充強化に努めております。
- また、前回も申し上げたかもしれませんが、県のほうも共催という形で参画をいただくということになってございます。
- 読売新聞 ありがとうございます。
- 今に関連してなんですけれども、正式契約については、実行委員会の席で正式な発表ができそうな段階にあるということでしょうか。
- 市長 その辺は、まだ何とも言えない状況です。
- 読売新聞 わかりました。ありがとうございます。
- 読売新聞 関連してなんですけど、県と共催するということですが、共催のあり方なんですけど、具体的に県としてこういうことをして幾らか予算というか、負担金を出すのか、そういったことがもし決まっていれば、教えてください。
- 市長 共催の役割分担については、まだ今詰めている最中ですので、こういった部分を県に協力をいただくということについては、まだ今詳細については決まっておりません。

- 埼玉新聞 クリテリウムに関連してなんですが、部会についてです。第1回の4月の実行委員会で部会をつくるということが発表されてもう1カ月半以上たっていますが、まだ一度もどの部会も開かれていないと聞いております。この点について、ちょっと私は遅いのかなという気もするんですが、市長はどういうふうにとめていらっしゃいますでしょうか。
- 市長 今このそれぞれの部会に入ってくださいメンバーの方々、あと実行委員会に入っていない方々も入ってくると思いますので、そういった皆さんと調整をしている段階だろうと思いますので、決して遅くはないと思っておりますが、ただ具体的に一番動いていく実行委員会がこの部会になると思いますので、できるだけ早急に設置拡充をして、さまざまな詳細のことについて詰めていく必要があると考えております。
- 埼玉新聞 今正式契約の最後の段階に入っているということでしたが、契約が終わった後、そう時間がたたないうちに部会は動き出せそうなんですか。
- 市長 もちろん契約との関連性もありますが、基本的にはもう実行していくということが決定しておりますので、進めていける部会と、あと例えば運営部会等は、コースが確定をしないと動きにくい、あるいはその準備、もちろん準備からありますから、その準備の段階でもできるという部会もありますけども、多少部会によって動き出す時期は差が出てくるのかなとは思いますが、早期に動いていくべき部会については早急に立ち上げて、いろいろなことについて議論していく必要があると思っております。

### その他：大宮西高校の中等教育学校化に保護者などから不安の声が上がっていることについて

- 毎日新聞 毎日新聞です。前回の市長の会見で発表されました大宮西高校の中等教育学校化についてお伺いします。
- 保護者の方や職員のほうから募集停止後の在校生の扱いについて不安の声が上がっているというふうに聞いています。主な内容としましては、生徒が少なくなるということで、部活動ですとか学校内の活動ができなくなるということや、あるいは教員の数がこのまま生徒の数に合わせて通常どおり配置されるということになりますと、3分の1、3分の2になるとい

うことで、十分な指導が受けられないのではないかといった、そういった内容なのですが、市長としましては、この募集停止をして3年度あけて31年度に開校するというスケジュールを少し遅らせて、中等教育学校の新入生と同時に高校の生徒が在籍するという、そういう状況をつくるというふうに少しスケジュールを変更するというようなお考えは全くないのか、そうであれば、もう一度募集停止をしてから中等教育学校を開校する意義について教えてください。

- 市長 基本的には、先般ご報告しましたスケジュールに沿ってというふうに考えておりますけれども、ただもちろん今後実際に進めていく中で詰めて検討していくべきものもあるかなと思っております。

細かい点については、担当から少し補足で説明をします。

- 事務局 高校教育課でございます。  
今質問がございました31年の開校ということですがけれども、これはこちらのほうとしましては、最短でも31年の開校と考えておりまして、これを延ばすということは考えておりません。

また、在校生がいる中で中等教育学校の生徒を募集するという事は、中等教育学校にふさわしい校舎を整備するという意味から非常に困難なことであると思ひまして、在校生が卒業してから中等教育学校の生徒が入学するというふうに考えております。いずれにしましても、在校生、卒業生等、これまで大宮西高校に携わってこられました人たちが誇れるような学校にしていくということが教育委員会の責務であるというふうに考えております。

- 市長 いずれにしましても、在校生の皆さんを初め今後入学される方々、少し不安な面もあるかと思ひますので、その辺は十分に説明をしてもらうようにしていきたいと思ひしております。

### その他：市長選から1年を振り返って。

- 日本経済新聞 日経新聞と申します。  
昨年の市長選から1年がたって、2期目、1年がたちましたけれども、この1年間を振り返られて、どういった政策を実績として上げられるのかという点と、残りの任期3年間で優先的に取り組むべき課題として今どう

いったご認識をお持ちなのかということをお伺いします。

○ 市長      それでは、質問にお答えをしたいと思います。

当選してから、3日ぐらい前ですかね、ちょうど1周年ということでございまして、市長選が5月ということもございましたので、1期目の継続した中で昨年度やる事業、あるいは力を入れてきた事業については実施ができたと考えております。

それに加えて、昨年度は、これから新たに取り組んでいく方向性、計画、ビジョンについて、一番大きなものは総合振興計画でありますけれども、基本計画、そして実施計画、それからマニフェストに基づいたしあわせ倍増プラン、そして成長戦略、行財政改革推進プランということで、それらのプランを昨年度でまとめさせていただきまして、今年度はいよいよそれを本格的にスタートさせていく年だということで進めているところです。

基本的には、当選をさせていただいたときにもずっと申し上げておりますが、ここ5年から10年というのはさいたま市にとって非常に大切な時期であると認識をしておりますので、スピード感であるとかタイミングということを踏まえて、今幾つか掲げております施策をしっかりと実現をしていきたいと思っております。

特にまちづくりの分野については、これからさいたま市の試算では、平成37年ぐらいまでは人口が増加するとしておりますけれども、そう遠くはないタイミングで人口減少ということを意識しなければいけないと思っておりますので、その前にしっかりとやるべきことをやっていかなければいけない。

さいたま市は、2都心4副都心ということでやっておりますので、その都市機能の充実と持続可能な成長を遂げるためのインフラの整備ということをしっかりとやりたいと思っております。

また、救急医療の問題、あるいは子育て支援の問題については、これらもしっかりと取り組んで、安全安心を確保していきたいと思っております。

**その他：さいたまクリテリウムの代理店について。**

- テレビ埼玉      テレビ埼玉です。
- 済みません、クリテリウムの話にまた戻ってしまうんですけども、以前JTBがスポンサー集めをしていたと思うんですが、今回広告代理店にお願いするということでしたけれども、その代理店というのは決まりましたでしょうか。
- 市 長      大会のPR、またスポンサーセールスなど、やはり専門的なノウハウを持った事業者の協力が必要であるということで選定を行っていきまして、5月16日に博報堂DYメディアパートナーズと契約をさせていただきました。
- 今後は、そういった広告代理店のノウハウも活用させていただきながら、大会PR、あるいは協賛を初めとするスポンサーセールスをしっかりと行っていきたいと思っております。
- テレビ埼玉      ありがとうございます。
- ちなみに、委託金など金額は決まっていますか。
- 市 長      担当は。
- 事務局      スポーツイベント室です。
- 契約金額は800万円、税込みで864万円です。
- テレビ埼玉      ありがとうございます。
- 市 長      ほかにはいかがでしょうか。

### その他：大飯原発差し止めを命じた地方裁判所判決について

- 読売新聞      読売新聞です。
- 昨日ですが、関西電力の大飯原発3、4号機をめぐって、いわゆる福井地方裁判所が、いわゆる原発の差し止めを命じる判決を出しました。原発、福島原発事故後ですね、いわゆる原発の差し止めを命令する判決は初めてだったかと思うんですが、埼玉県内、原発はないですけども、その原発がない自治体の長としてですね、電力の供給を受ける立場として、きのうの判決をどのように受けとめるか。あの判決で、さらに国内の議論がさらに深まっていく側面があるかと思うんですが、125万の人口を抱える政令市の市長として判決をどのように考えるか、今後の原発についてどの

ようなふうを考えるか、所感を、可能であればお聞かせください。

- 市長 判決文、判決内容について、十分把握をしておりますので、ちょっと細かいコメントは避けたいと思いますが、基本的には原発の安全性ということについて、やはりまだ十分ではないというような判断が下されたと聞いております。

そういう意味では、原発稼働に当たっては、やはり安全性をしっかり確保していくということが必要、求められているということだろうと思えますし、私たちとしては引き続き省エネでありますとか、あるいは私たちがやれるエネルギーの地産地消といいますか、自然再生エネルギーの拡充であるとか、そういったことをしっかりやりながら日本に合ったベストミックスのエネルギーのあり方ということをも十分踏まえて進めていく必要があると思っておりますし、あわせて原発の再稼働等については、やはり安全性ということをしっかり担保していただきながら進めていただきたいと思っております。

- 読売新聞 ありがとうございます。

### その他：児童虐待事案検証報告書の答申について

- 毎日新聞 毎日新聞です。

先日、昨年の夏に1歳の女の子がネグレクトによる熱中症で亡くなったという事案についての検証報告書が提出されたかと思えます。そちらで第一に指摘されていた点として、市の保健センターであるとか児童相談所、あるいは母親の生活支援をする部署との情報共有が十分にできていなかったということが報告されました。最後、女の子が亡くなる直前も、保健センターのほうに入った連絡がうまく児童相談所に連絡されなかったということが、直接亡くなるきっかけにもなったのではないかとということで指摘されています。このことにつきまして、事件からもう1年近く経過しますが、具体的な情報共有の改善がされていないというふうに聞いていますが、市長としてはこの報告を受けてどのように指示をされたのか、あるいは1年余りですね、1年近くですね、改善が進んでいないことについてどのように受けとめられているか、お聞かせください。

- 市長 今回ですね、児童虐待の死亡事例の検証報告というのが検討委員会（児

児童虐待検証専門分科会（会見後補足）からなされました。これらの提言一つ一つを私たちは重く受けとめていかなければいけないと思っております。

特に今回の事例は、乳幼児を自宅に置き去りにして、いわゆるネグレクトというか、育児を放棄するといえますか、そういった状況があった中で熱中症になって死亡事故につながっていったということでありまして、そういう意味では私たち、これから特に児童虐待、具体的に身体的な暴力ということもありますけれども、ネグレクトということについて、もっとやはりアンテナを高く張って情報を共有しながら、防止策ということをやっつけていかなければいけないということを私自身も改めて痛感をしたところであり、特に区の保健センターなどが、子供が生まれて間もないときに各家庭に伺ったり、あるいはハローエンゼルという事業の中で行ったりして、その中で多少リスクがありそうな家庭というのがわかってきたりというようなこともありますので、いろいろな形で情報共有をして、そしてこういった事件にならないようにアンテナを高く張りながら、また情報共有をしながら、とにかく未然に防いでいく、こういう事故が二度と起こらないようにしていくということが必要だろうと思っております。

そのために、やはり何といても幾つか関連する機関、あるいは部署がありますので、そういったところの情報共有であるとか、あるいは情報交換というものを、あるいは共通認識みたいなものをしっかりと持って対応していくことが必要であると考えておりますので、特にその辺については、私からも指示をさせていただきました。

- 毎日新聞      市長からの指示というのは、具体的にどういったものでしょう。
- 市長          今言ったように、保健センター等で早いうちに、多少いろいろリスクがある可能性のあるところが発見されたりするケースがありますので、特に乳幼児の段階というのは、そういうタイミングでないとなかなか、特にネグレクトの場合は具体的に発見しにくいというところがありますので、やはりそういったところとかなりアンテナを高くしながら、そのリスク評価ではないですけど、リスク性があるのではないかという情報を共有をして、いきなりそこで児童相談所というよりは、いろいろな形の中で見守りをしていくとか、状況を把握していくということが必要ではないかと思っておりますので、そういった情報の共有とか連携であるとかいうことを今……



協議会は何でしたですかね。

○ 事務局

子育て支援課でございます。

市長が申しあげました連携、情報の共有をしていきますのは、要保護児童対策地域協議会というのがございますので、その中で先ほどの保健センター、先ほど出ました児童相談所もメンバーとしてなっておりますので、その要保護児童対策協議会の中で情報共有をどのように行えば良いかというところをこれから検討していきたいと考えております。

○ 毎日新聞

協議会は従来からあった組織でして、この報告書のほうでも、協議会は十分に活用するよという指摘はあるんですが、今回の事案が起こったということで、改めて市長のほうから情報の共有化ですとか、そういった指示をされたということはなかったのかということですね……

○ 市長

そうですね、やはり先ほど言いましたアンテナを高くするというか、特にネグレクトの場合は非常にわかりづらい、見えにくいというところがありますので、暴力によるものなどについては比較的、発見をしてそれが児童相談所につながっていくというのがわかりやすくというか、やりやすいんですけども、ネグレクト等、リスクをいかに早く発見をして、いきなり児童相談所というよりは、幾つかのいろいろな制度の中で、その家庭を見守りながら対応していくということが、特にネグレクトの場合には非常に私自身は必要であると感じておりますので、それが必ずしも、今回は発見しにくかったという状況はあるにせよ、これからネグレクトという部分について言うと発見がしにくいということが前提にあると思うので、だからこそいろいろな情報を今まで以上に共有をしっかりと図っていく必要があると思っておりますので、それを改めてしっかりとやるよというよというよことで指示をしたということですよ。

### その他：漫画「美味しんぼ」の福島原発事故に関連した表現について

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。

先ほどの大飯原発の話とも少し関連するんですが、東日本大震災で起きました福島第一原発事故関連についてです。4月の下旬ごろからですね、漫画の「美味しんぼ」の表現をめぐって、各所でいろいろ議論が巻き起こ

っています。それに対しては、風評被害を助長する、ですとか、そういった意見がある一方、なかなか言いたくて言えないことをこういうサブカルチャーとしての漫画が役割を果たしてくれたという肯定的な意見もあります。この問題について、市長はどのようにお考えになっていらっしゃいますでしょうか。

○ 市 長           そうですね、2つの側面があるとは思っています。

1つは、環境省でも5月13日付で「放射性物質対策に関する不安の声明について」ということで、「原子力発電所の事故の放射線被曝が原因で住民に鼻血が多発しているということは考えられない」という見解を発表しておりますし、また専門家の皆さんもそういう指摘をされている方々もいらっしゃいますし、また因果関係が必ずしも十分ではないというお話をされている方もいらっしゃいます。

そういう意味では、漫画という文化は、今、ある意味では非常に大きな影響力を持っている日本の文化であると思いますので、その影響というものをやはり十分認識をしていただきながら、発信をしていただくということが大切ではないかと思っております。

それから、もう一方で、とは言っても表現の自由ということについては、もちろんこれは担保されるものであらうと思っておりますけれども、この2つをしっかりと認識した上でやっていただくことが必要じゃないかと思っておりますけれども。

○ 埼玉新聞       題材として取り上げることについては、じゃ特に問題はないということではよろしいですか。

○ 市 長           そうですね。恐らく伝え方は、もうちょっとあつたのかなという感じは、正直言って、しますね。やはり原子力の問題について、もう一回考える必要があるのではないかという、広い意味ではそういう問題提起であらうとは思いますが、ただ、ちょっと表現の仕方としては誤解を招いたりする部分が多かったように思いますが。

○ 埼玉新聞       さらに関連してなんですけど、今月12日、福島県の佐藤雄平知事が埼玉県の市町村長会議に出席されて講演しました。市長も講演をお聞きになっていると思いますが、まずこの講演を聞いて、率直なご感想をお願いします。

○ 市 長       そうですね、1つはやはり福島を中心に復興にまだまだ至っていないということと、あわせて風評被害を含めていろいろな影響がまだ残っているということを佐藤知事のお話を聞いて改めて感じたところです。

さいたま市としては、ちょうど東日本大震災が起こった年にも館岩に、南会津町にですね、さいたま市の保養施設といいますか、いわゆる小学生、中学生が研修をする施設 (館岩少年自然の家) がございます。

そこに行っているものかどうかという、やっぱり議論があったのは確かでありますけども、でも、そのときもしっかりと（放射線量の）数値を私たちが測らせていただいたり、周りの状況などもしっかり把握をした上で、さいたま市とほとんど変わらないというような数値でありましたので、それらについては保護者の皆さんに教育委員会が、各学校ごとにしっかりと説明をして、継続をさせていただきました。

そういう意味では、しっかりと事実というか、そういったことを知っていただいて、復興に協力をしていくということの必要性ということ、改めてこの間の佐藤知事のお話を聞いて感じたところでもありますし、私たちとしてもやはり福島の復興のためにいろんな形で協力をしたいし、応援をしていきたいと思っております。

○ 埼玉新聞       たしか上田知事が、福島を応援していきたいという発言をきのう会見でしていると思いますが、さいたま市としては、何かこういうことをやっていきたいみたいなものはありますでしょうか。

○ 市 長       そうですね。1つは、これまでもやっていることですが、それぞれ自治体に長期間の職員を、福島に限ったことではありませんけども、被災地には職員を長期間派遣ということで11名、今派遣をして、昨年より1名増やして派遣をさせていただいたり、あるいは、これは復興支援だけが目的ではありませんけれども、館岩の研修所 (館岩少年自然の家) に、今後は統合して、より子供たちに自然体験をしていただくということもやってみますし、これまで、あと花火大会であるとかマラソン大会であるとかで被災地の皆さんの特別枠などをつくって、来ていただいたりというようなこともさせていただきましたし、また区民まつりなどイベントにおきましても、被災地のいろいろ農産物であるとか、あるいは製品などを販売していただいたりというようなこともやってきました。

いずれにしても、継続的にやっていくということが私は大切だと思っています。一過性に大きく何かをやるということだけではなくて、やはり継続をして応援をしていくということが大切だと思っているので、これをやはり継続的にやっていく中で、さいたま市としても福島を含めて東日本の被災地の皆さんを少しでも応援をしていくというスタンスを持ち続けていくということですね。

- 共同通信      ほかにありますでしょうか。

**その他：さいたまクリテリウムの現状の進捗状況の認識は。**

- 朝日新聞      朝日新聞です。

クリテリウムについてなんですが、現状でまだコースがですね、確定していないとかですね、市長としては現状の進捗状況はちょっとおくられていると思われるのか、今こういう状態でいいのかと、その認識はいかがでしょうか。

- 市長      そうですね。コースの設定については、やはり前回よりちょっと遅れているという感じを持っておりますが、そのほかの準備については、最初の、実を言うとやっぱり契約の部分が非常にその後やっていく上で大切なものですから、そこをかなり私たちとしては重視して交渉してやっております。

ですので、協賛なども含めて、並行していろいろな取り組みもしておりますので、決して遅いという感じはしておりません。

ただ、いずれにしても、コースについても、あるいはいろいろな体制についても早急に決めて、できるだけ早くスタート、本格的なスタート、もうスタート自体はもちろんしておりますけれども、本格的なスタートができるようにしていきたいと思っております。

実際には、準備行為としては、かなり私たちもスポンサーの確保等についても動いておりますし、いろいろな準備については昨年の状況も踏まえて並行的には行っているのもまた事実でありますので、全体としては物すごく大幅に遅れているとは考えておりません。

- 共同通信      ほかいかがでしょうか。

では、ないようですので、どうもありがとうございました。以上をもち

まして、本日の記者からの質問を終了させていただきます。

- 進 行      ありがとうございました。以上をもちまして、市長定例記者会見を終了させていただきます。

              次回は、6月6日金曜日、1時半からを予定しておりますので、よろしく  
              お願いいたします。

午後2時23分開会

※ この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。